

【No.9 リビングラボ・アライアンス・ジャパン準備室】

● **活動地域** 栃木県、長野県、秋田県

● 【リビングラボ・アライアンス・ジャパン準備室】の特徴

■ 特徴① 新産業の共創にフォーカス

■ 特徴② インタープレナーの活躍を促進

■ 特徴③ 地域間リビングラボ連携

設立の背景・主な構成員

● 地域DX推進コミュニティ設立の背景・きっかけ

那須でスタートした共創の場であるリビングラボの取り組みを基盤とし、栃木県や長野県・秋田県にてインタープレナー（越境人材）を中核とした新産業創出の仕組みを構築する。組織を越え価値を生み出す地域のインタープレナーを発掘し、多様な主体との対話を通じて共創プロジェクトを創出、地域企業のDXを支援しながら新産業の基盤を構築する

● 代表機関：SUNDRED株式会社

新産業共創スタジオの活動を通じて獲得したデジタル技術を活用した新産業の共創、リビングラボの開発、活動のファシリテーション、プロジェクトマネジメント、事業の運営管理、関係者間の調整等に関わるスキル、ノウハウ、プロフェッショナル人材、各種ツールを活用し、事業全体のマネジメントと遂行・経費の管理を行う

● 構成員：

- （一）ナスコンバレー協議会：栃木県でのコミュニティ構築支援
- （一）長野ITコラボレーションプラットフォーム：長野県のコミュニティ構築支援
- 公立大学法人国際教養大学：秋田県のコミュニティ構築支援

● キーパーソン

➢ 代表機関：SUNDRED株式会社



- 留目 真伸（SUNDRED株式会社）
SUNDRED(株)代表取締役CEO。レノボ・ジャパン、NECパーソナルコンピュータ 元代表取締役。各地域における新産業共創、リビングラボ開発にあたり関係者の巻き込みやファシリテーションを実施

支援活動の内容

① 地域企業のDX推進に向けた課題分析・戦略策定の伴走型支援

那須・長野・秋田それぞれの地域において、新産業の共創をテーマに多様な主体と地域DX推進コミュニティを構築・対話を推進。対話の内容を「フューチャーボード」に蓄積しながら、各地域で1件以上の新産業共創プロジェクトを組成、合計で6社以上の地域企業のDX推進に向けた伴走支援を実施

② 地域企業とソリューション提供事業者（ITベンダー等）とのマッチング

合計6社以上の地域企業に対して各地域における新産業の共創や地域企業のDX課題の解決に貢献するITベンダー、スタートアップ等をマッチングし、ソリューションの実装イメージを作成

③ その他、地域企業のDX推進に向けた支援活動

継続して新産業創出、地域企業のデジタル化・DXを推進していく活動母体としてのリビングラボの事業モデル・事業計画の詳細を作成する。また、地域における新産業創出、地域企業のデジタル化・DXの取り組みを紹介し、ディスカッションを行うカンファレンスを開催

➢ 構成員



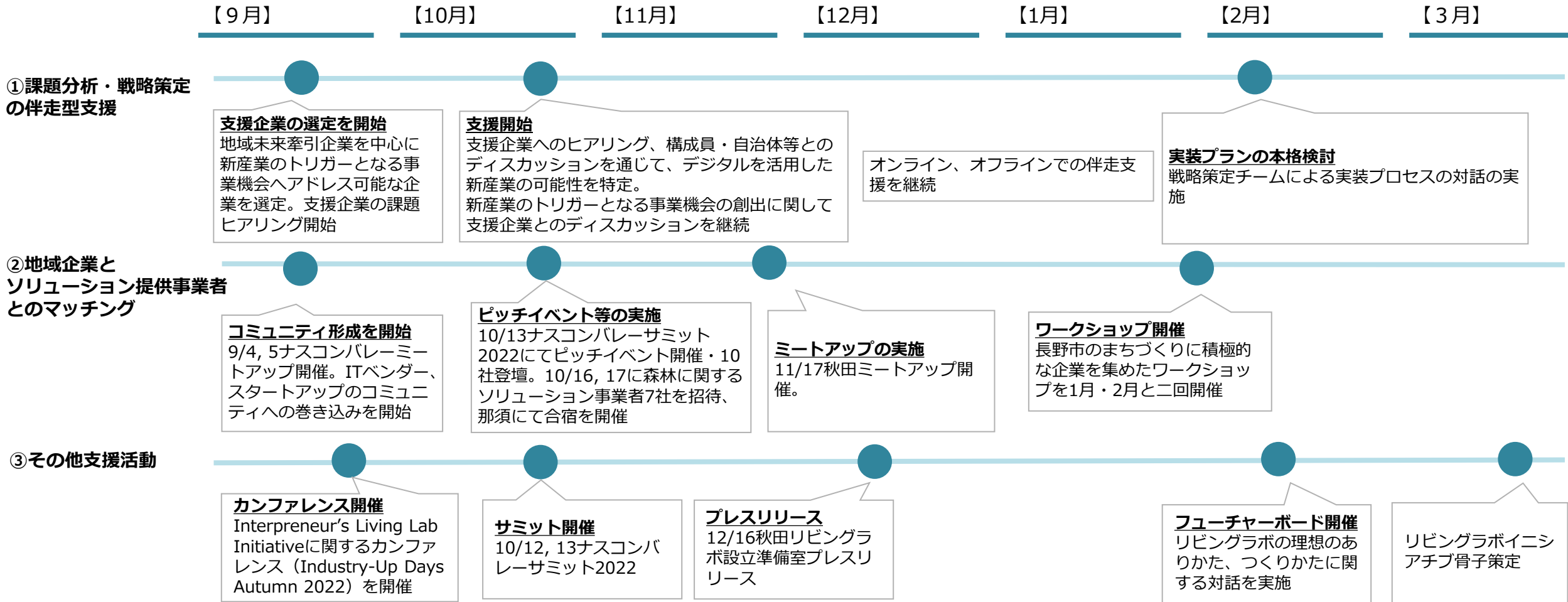
- 荒井雄彦（一般社団法人長野ITコラボレーションプラットフォーム）
信州ITバレー構想に向けた戦略の企画、提言、運営を行う長野ITコラボレーションプラットフォーム（NICOLLAP）の理事。主に長野地域における地域DXコミュニティの創出等を推進する

● 問い合わせ先

SUNDRED株式会社 留目 真伸、todome@sundred.co.jp

【No.9 リビングラボ・アライアンス・ジャパン準備室】

支援スケジュール（令和4年度実績）



・事業実績：支援を実施した企業数、実績結果への所感等：

秋田・長野・栃木にて計7社に対し課題分析・戦略策定・マッチング・課題分析・戦略策定を推進。新産業とデジタル化をコミュニティ一丸となって議論することの価値を再確認した

・波及効果について：

コミュニティ形成、リビングラボづくりの活動を知った大企業・地域企業・スタートアップ・アカデミア等からの問い合わせがあり、具体的な活動への参画もはじまった

・自走化への道筋：

リビングラボへの参加費負担の仕組み、事業の成果からの成果報酬の仕組み等を加味していくことで、自走化を目指す

【No.9 リビングラボ・アライアンス・ジャパン準備室】

支援好事例（令和4年度実績）

支援先企業名：秋田ノーザンハピネッツ株式会社

● 支援先企業の概要：

- ・業種：サービス業（他に分類されないもの）
- ・資本金：8,000万円
- ・従業員数：14人
- ・主要サービス：プロスポーツチームの運営、プロスポーツ選手のマネジメント、スポーツイベントの企画・運営・主催



● 支援先企業が抱える課題：

支援先企業は地域の未来の創造・活性化をビジョンとしてプロスポーツチームの運営を中核とした様々な事業を行っているが、デジタル技術を有効に活用し、社会に対して更に大きなインパクトをもたらす事業を創出していきたいと考えていた。他地域におけるリビングラボでの活動を知り、多様な主体が集まるコミュニティにおいて対話を通じて新たな産業のストーリーを共創しそのトリガーとなる事業を創出していく手法に共感したことから、リビングラボ・アライアンス・ジャパン準備室とのディスカッションがスタートした。

● 支援内容：

代表機関であるSUNDREDが支援先企業を訪問し、支援先企業の事業概要・事業戦略をヒアリングの上、デジタル技術を活用した事業機会に関するブレインストーミング、アイディエーションを複数回実施。さらに参画機関の公立大学法人を交えて本格的な戦略ディスカッションを複数回行い、多様な主体が参加し「実現したい未来」を共創していく仕組みとしての「リビングラボ」を立ち上げ、「リビングラボ」の活動を通じて新産業のストーリーを共創し、支援企業を含む各社の事業機会を創出していく取り組みを開始した。その後 公立大学法人および支援先企業・代表機関を中心とした約10名から構成される検討チームを組成し、必要に応じてその他の主体も巻き込みながら、定期・不定期でのディスカッションをオフライン、オンラインにおいて継続し、「リビングラボ」のイメージおよび、各社の役割、リビングラボにて取り扱うプロジェクトとしての支援先企業の新事業についての検討を推進。

検討の成果として、12月16日にSUNDRED・公立大学法人・支援先企業にて「リビングラボ組成に向けた連携協定」を締結し、プレス発表を行った。

同日より「リビングラボ設立準備室」を立ち上げ、まずはリビングラボのコンセプトの認知拡大や参加者を募る目的でワークショップやイベント等をシリーズで企画・開催するとともに、県内のインタープレナー人材を発掘し、県外のインタープレナーも交えた繋がりを構築する仕組みの検討を、リビングラボのコアメンバーとなり得る県内外の複数の主体と開始。公立大学の学生も交えたプログラムを開発し、リビングラボに参画する多様な人々の課題意識・期待・価値観をもとに、「実現すべき未来」の解像度を高め、その未来を実現する構成要素として具体的に取り組むプロジェクトの組成を進めていくこととした。

● 支援成果：

支援先企業においてデジタル技術を活用した新規事業の解像度が向上し戦略オプションの検討を進めるとともに、リビングラボおよび学生の活動との連携を開始。

● 支援成功のポイント：

この地域においては、自治体・大学・金融機関等を中心として地域課題の解決に向けた議論や、スタートアップ育成に関する取り組みが活性化しつつあった。そこに「リビングラボ」という体系化した仕組みを提案していくことによって、多くの主体が共感するコミュニティのイメージを共有することができた。参画機関に公立大学法人が含まれていたため、学生の参画・人材育成などの要素を含む本格的なリビングラボの活動を検討することが可能となった。